

# 規制薬物の処方における危害ゼロ化： 薬物検査サポートの強化を通じ、 処方遵守モニタリングの精度を向上

クリーブランド大学病院  
クリーブランド、オハイオ州、米国

## 主なパートナー / 関係者

Jaime Noguez | Christine Schmotzer | Sean Hoynes | Heidi DelVecchio | Jeanne Lackamp

オピオイドなどの規制薬物による死亡者数は、過去 5 年間にわたって高いレベルにあり、増加し続けています。CDC のデータによると、2021 年に薬物の過剰摂取によって 100,000 人以上の米国人が死亡し、2020 年と比べて 10% 増加したことが示されています<sup>1</sup>。オピオイドは、過剰摂取による死亡の最も多い割合を占め続けています。国、州、地域レベルで発展したこの危機への対応として、医療機関は、患者に安全なケアを提供するための地域での対応を講じるとともに、オピオイド処方に関して継続的に変更される法律および規制ガイドラインの遵守を維持することも求められました。

大学病院（以下、UH）の Pain Management Institute と病理科の対応の一環で、この変化し続ける環境において規制薬物を安全に処方する 1 つの方法として、尿中薬物検査を効果的に使用することを目標とした学際的グループが招集されました。この連携には、臨床、検査、リスク管理のリーダーが含まれ、規制薬物のモニタリングのために医師が臨床検査をオーダーし、解釈する際の、容易さ、正確性、信頼性を向上させることを目指しました。この目標を達成するために、包括的な薬物検査パネルを設計しました。直感的な命名、スクリーニング検査と確認検査の間の自動再検、一般的に処方されるオピオイドとベンゾジアゼピンを検出する包括的な分析法などを含むパネルです。また、検査の選択と解釈に関するガイダンスを提供するためのさまざまな教育用資材が開発され、さらに、補完的な検査室毒性相談サービスが設けられました。

これらの検査および教育の変革を実施して以来、UH は、尿中薬物スクリーニングの推定陽性者に対する適切な追跡調査において 98% を超えるコンプライアンスを持続的に達成し、患者の薬物検査費用を 25% 削減し、患者の 25% に対し再採取を削減することで患者の利便性を向上してきました。さらに、包括的な規制薬物検査をオーダーする医師および検査を受ける患者の数は、このプログラムを通じて 2 倍以上になりました。臨床医の検査ガイドラインの遵守率は 35% 増加し、医師は、規制薬物を処方された患者に対し、患者ケアの一環として薬物検査を使用できることに自信が高まったことを報告しています。この取り組みは、医療制度において規制薬物を処方された患者への安全なケアの提供を強化するものであり、さらに高い視点で見ると、当該地域において、オピオイドの過剰摂取リスクを軽減することでオピオイド危機の抑制に貢献するものです。



**UNIVANTS**<sup>™</sup>  
OF HEALTHCARE EXCELLENCE

1. Centers for Disease Control and Prevention (2022). U.S. Overdose Deaths in 2021 Increased Half as Much as in 2020 - But Are Still Up 15%. Access at: [U.S. Overdose Deaths in 2021 Increased Half as Much as in 2020 - But Are Still Up 15% \(cdc.gov\)](https://www.cdc.gov/od/oc/2022/02/02-us-overdose-deaths-in-2021-increased-half-as-much-as-in-2020-but-are-still-up-15%/)